



音楽運動



日本音楽協議会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目10-15 富士ビル505号室 発行人 松本敏之
TEL 03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email nichion@yomogi.or.jp

言葉がメロディを探す歌詞作り

2025日音協セミナー創作講座報告

3月1・2日、小平市の学園坂スタジオを会場に、青森・岩手・秋田・長野・茨城・東京から14人が参加して2025日音協セミナー創作講座を開催しました。作詩へのアプローチなどについて市野宗彦さんの講演を基に、持ち寄った自作の詩を作るきっかけや背景、詩に込めた思い、誰に聴いて欲しいのかなどなどざっくばらんに話し合うワークシヨップ、谷森一寸さんと小笠原もずくさんのユニットでプロ音楽家の演奏を聴くコンサート、参加者コンサートと交流会、等の取り組みでした。

【作詩は「ことばからはじまる」】

「ことばから始まる」をテーマに詩づくりへの七つのアプローチについて、市野宗彦さんから佐伯義人さんの演奏で歌を交えて講演をしていただきました。

【その一】文章に触発されて

政治状況や社会の動きなどのとらえ方、それに対する自分の立ち位置はどこにあるのかが反映される作品作り。詩という体裁がない文書や手紙などから、着想を得て歌詞を作る。歌詞を大事にすることで曲作りには変拍子なども用いる。

【その二】詩に触発されて

詩集や日音協会員の作品など、作曲者本人以外が作詩した詩に共鳴して作曲した作品。日音協の会員の詩やエッセイ・手紙など作品作りに繋がる工夫があるといいかも、もしかして眠っている宝を呼び覚ますこともあるかもしれません。

【その三】詩も曲もつくる

詩をまとめて曲をつけるという作業は、ワンオペなので作者の感性によるところが大きい。作品を作り続けるという継続性がやがて聴く人の共感を得る作品を生み出すことにつながるという思いが大事。

【その四】歌と言葉を組み合わせる

歌う前に曲の背景や曲に込めた思いなどを語るところから表現が始まる。聴く人の関心を引き付けてから歌に入ると共感や理解が得やすくなる。

【その五】短い曲を作る

八小節から一二小節くらいで収まる詩作り。センチメンスが短く覚え易く歌い易い作品づくり。

【その六】替え歌をつくる

聞きなれている曲の歌詞を換えて歌

うところはアピール度が高い。ピリツと風刺が効いて、クスツとなるところが、替え歌の素晴らしさというところ。

【その七】外国の歌を日本語にする

支配する者から不利益を被り、虐げられている人たちの現状を知ることとその苦役から解放されることへの祈りを歌に込めて

【ガザの空高く】

詩・曲 リリア・ファット・アルアラリール
日本語訳 杉五郎

生まれ変わったら風になろう
白く長い尾を付けた風になろう
風をはらみ風に乗る
ガザの空高く青い空高く舞うのだ
見上げる子どもたちに
一筋の希望がとどくだろうか
(If I must die yes)

今回のセミナーは、作品作りの技術的なことよりも、作詩することについての情報交流を狙いとしてしました。

ワークシヨップには7人の参加があり、それぞれ持ち寄った自作の詩の中から一遍を朗読し、詩を作ったきっかけ、詩の背景、誰に聴いてもらいたいのかなどをそれぞれがプレゼンして合評会的に話し合うというスタイルで取り組みました。

それぞれの詩に対しては、分かりにくい表現や改善にむけた助言、詩づくりの手法なども話し合うなど短い時間のなかで一定の成果がありました。

(後藤雅裕)

第56回はたらくものの音楽祭
2025年10月18日(土)~19日(日) 長野県千曲市・戸倉創造館

未来は変えられる！戦争ではなく平和なくらし！ 2025 憲法大集会のご案内

日本は、多くの命を犠牲にした 80 年前の戦争の反省から、戦争放棄と国際平和を誠実に希求することを約束し日本国憲法を制定しました。しかし現政権は、今世界で起きている戦争に対し、停戦を呼びかけないどころか、憲法を改悪し再び戦争ができる国づくりを目指しています。

こうした動きに反対し、5 月 3 日の憲法記念日に、「未来は変えられる！戦争ではなく平和なくらし！2025 憲法大集会」が、平和といのちと人権を！5・3 憲法集会実行委員会の主催で開催されます。日本音楽協議会（以下、日音協）は、日本のうたごえ協議会と共に実行委員会に加わり、下記の通り、平和と憲法の大切さを集会の中で、歌と演奏を通して訴えます。皆様の参加をお待ちしています。共に歌声をあげましょう。

【集会における日音協の取り組み】

- 1 日時 2025 年 5 月 3 日（土）
 - 11 時 ミニステージ『HUMAN MUSIC ライブステージ』
 - 13 時 メインステージ クロージング『HEIWA の鐘合唱』
 - 14 時 30 分 『送り出し演奏』（ステージと路上に分かれます）
- 2 内容
 - ① ミニステージ『HUMAN MUSIC ライブステージ』
 - 1、宮尾節子さん（詩人）ポエトリー（朗読と楽器演奏）
 - 2、いくたまんじさん（シンガーソングライター）
 - 3、ういみん（女性コーラス）
 - 4、仲里幸広さん（シンガーソングライター）
 - 5、その他
 - ② クロージング『HEIWA の鐘合唱』

演奏：ユキヒロさんと憲法集会合唱隊
 - ③ 送り出し演奏曲 『ねがい』『約束のうた』『決意』
『ノーモア WAR』『世界は九条を待っている』
演奏：憲法集会合唱隊（ステージは固定メンバーとなります）
当日参加の方は、ステージ前で一緒に歌ってください。
 - ④ 「送り出し演奏」（路上）：参加自由、楽器、鳴り物、持ち込み演奏大歓迎です。

●日音協は、参加者の交通費その他の費用を負担しません。
●日音協の当日の連絡責任者は会長の松本（090 5796 4261）です。

【集会の概要】

- 1 集会名 『未来は変えられる！戦争ではなく平和なくらし！2025 憲法大集会』
- 2 日時 5 月 3 日（土）
 - 11 時 ミニステージ開始
 - 13 時 メインステージ開始
 - 14 時 30 分 パレード開始
- 3 会場 東京・有明防災公園
（東京臨海広域防災公園・東京都江東区有明 3-8-35）
りんかい線「国際展示場駅」徒歩 4 分／ゆりかもめ「有明駅」徒歩 2 分
- 4 主催 平和といのちと人権を！5・3 憲法集会実行委員会
詳細は、下記 URL または QR コードより集会チラシをダウンロードしてご覧ください。

<http://sogakari.com/?p=8004>



原発事故から14年 福島を忘れない！ 「さようなら原発 3・8 富山集会」

去る 3 月 8 日（土）10 時から富山県民会館大ホールにおいて、「さようなら原発 3・8 富山集会」が、富山県平和運動センターなどで構成された実行委員会主催で開催されました。

富山県支部として集会前に「原発 NO！」「あたりまえの地球」「草たちよ（反原発バージョン）」「フクシマをくり返すな」「私たちは許さない（反原発 ver）」を歌いました。

記念講演は「志賀原発を廃炉に！訴訟」

原告団長の北野進さんによる『能登半島地震が警告する志賀原発の危険性』。珠洲原発が建設されていたら…。珠洲原発、地震も争点、能登半島地震と志賀原発への影響、避難計画の破綻、能登半島地震を教訓に政策転換を。昨年元日に発生した能登半島地震は志賀原発で震度 5 強を観測、外部電源の一部喪失や核燃料プールの水漏れなど様々な損傷を生み、半島全域で道路の寸断、港湾の隆起など甚大な被害を生みま

した。地震大国の日本に原発はいらない。すでに世界の多くの国々が原発から撤退し、再生可能エネルギーに大きく舵を切っている中、日本は既に 13 基の原発を再稼働。新增設、60 年超原発の運転延長等々原発回帰への大転換を、2 月には原発の「最大限活用」を打ち出す「エネルギー基本計画」を閣議決定しました。

「安心して子どもを生育で、安心して暮らし、安心して働ける、そして、子どもたちの未来を希望に満ちたものにするためにいま、声をあげましょう！ひろげましょう！」の集会アピールが採択されました。私たちは音楽を通じて歌うことでアピールしていきたいと思えます。（加藤葉子）

TASFC開催しました

富山アコ研スプリングファミリーコンサート

3月15日(土)午後2時から、富山市内の磯野宅にて今年も「富山アコ研スプリングファミリーコンサート」を開催することができました。地域の方々9名の皆様に足を運んでいただきました。

プログラムのオープニングは、メンバー5人による全体合奏「アリア」MINEUR IN Gで始まり、続いて田子久枝さんによる「ベリール」米澤佐智子さんによる独奏曲「ララのテーマ」。お二人ともとても滑らかな演奏でこの一年間の成果が演奏へとつながっていました。次に「とも&し

げ」のリードで会場の皆様と一緒に「春を歌いましょう」と題して「早春譜」をはじめ6曲を歌いました。

続いて、アコデュエットでは、「とも&しげ」による「アコデュオンポルカ」「2台のアコのためのエチュード」、「ひさえ&しげ」による「通りゃんせ」、「さつちゃん&ともちゃん」の「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク」なかなか難しい曲に挑戦したさつちゃん&ともちゃんの演奏は「やったあー!」という演奏で、それぞれ息を合わせた演奏に拍手! 磯野友一による独奏は「エーデルワイス」「ハイダ



日音協千葉県支部は総会を3月22日に 千葉県習志野市で開催しました

瓦井さんの司会ではじまり、松本政夫県支部長は「それぞれが活動が続いている。私鉄でも春闘などの集会で演奏することが多いが、交流する機会は少なく会員拡大には至っていない。若い人の参加が課題。職場での交流・拡大にむけて活動が続けていこう」。

来賓の松本敏之会長からは「昨年の沖縄ではたらくものの音楽祭やさようなら原発集会などへの千葉県支部からの参加、ありがとうございます。10月の音楽祭は長野県での開催に向け連合長野の支援を受けて実行委員会で結びつきを強めていく。日音協セミナーは創作講座が過日行われ、今後はステージスタッフ講座の開催と憲法集会などへの参加を呼びかけていくのでよろしくお願ひしたい。ともに頑張ろう」とあいさつを受けました。

事務局からの活動方針の提案と、会計担当から会計報告と予算案を受けたのち、県支部独自活動でありながらこの間コロナや関東ブロック合宿の受入れで開催できずにいた『ふれあい音楽広場(コンサート)』について議論しましたが結論が出ず、今後の練習後に引き続き議論していくことにしました。

また、活動が続いているなかでつながりがあり駅頭で演奏をする機会があり若い人からの反応があったことや、演奏ができるように練習をはじめたことやいろいろ学んでいきたいといった発言もあり、全体で確認しました。(根本賢治)



ヴァレントラー」「シルクロードのテーマ」の3曲。

そのあとは、会場の皆様と一緒になつて「こきりこ」「富山の名産」「ふるさと」を歌いました。「こきりこ」では、ささらやこきりこをみなさまにも奏でいただきました。特にメンバーであるさつちゃんのこきりこさばきは絶妙でみなさまの注目の的でした。そういえば、さつちゃんは五箇山生まれで、小さき頃からこきりこを奏でいたらしく、それはそれは音に深みを

与えてくれました。

いよいよプログラムも最終。全体合奏「こきりこの唄」「ドレミの歌」を演奏し、約1時間半のコンサートを終えることが出来ました。会場の皆様から、いっぱい唄をつたった。アコデュオンも良かった。また呼んでくださいなどの声をいただきました。

また来年も開催しよう!を合言葉に健康に留意しながら、それぞれが課題を持ち、この一年また練習に励みたいと思います。(磯野滋子)

No Nukes Fukushima 3.11ライブ



日音協福島の演奏（カモンにて）



おもと愉快的仲間（＃9にて）



いなのとひら・のことは（＃9にて）

3・11原発事故は終わってないぞ！ライブが開催された。3月9日（日）は前年に引き続きプレライブ。会場は郡山市のカフェ喫茶「カモン」。日音協福島の練習会で度々利用している気心知れた場所。マスターの大場さんは震災時、双葉郡浪江町から避難を続けこの地で喫茶店を経営している。震災避難者の音楽家ということもあり今回のライブに快く会場を提供していただいた。

し駆けつけてくれた7団体で演奏が始まった。県支部二階堂会長は司会を兼ねて開会あいさつ。トップバッターは我が日音協福島県支部。「草茫々」「これ以上海を」「よみがえれふるさと」の3曲を披露した。練習よりも良かったヨ・とのマスターの一言にホッと一安心。メンバーは高山・二階堂・佐藤（仁）・坂口・南條・みやちゃん。

でもピアノ伴奏をお願いした「みやwith凛然」。オリジナル溢れる曲、澄んだ声とギター伴奏で会場の皆をすぐ虜にしていた。引き続き余韻さめやらぬ中で洋楽中心の曲を披露した「宗田や総本家」。マスターの大場さんも心憎いリード演奏で参加、ウッドベースの音も心地よく会場の一体感をより一層強くしていた。

この後、二階堂会長率いる「ふれんず」登場。客席に歌集を配りなじみの曲を会場の皆で歌い合った。県支部事務局長のVJkinが続く。

最後は県支部が沖縄祭典で2曲を歌わせていただいた「おも」さん登場。この日はギター一本の弾き語り。のびやかな声でしっとりした歌が店内に響き渡り誰をも「おもワールド」に引き込んでいた。最後に地元の音楽仲間とつながりが深い高山さんの閉会の言葉で1日目のプレライブ終了。



VJkin

お店マスター大場さんの妻けいちゃんはこの大勢のお客様さんと駐車場の車の多さは開店して以来はじめてとオドロキと感激（実はけいちゃんも二階堂会長のふれんずの一人）。参加人数は52名、店の常連さんが厨房を手伝うなど店内は人の多さで多少の窮屈感はあるが味の違ういろいろな音楽に包まれあたたかく感じた楽しいプレライブでした。（5面につづく）

2025日音協沖縄行動は5月16日～17日 詳細は次号にて

No Nukes Fukushima 3.11をうたう



3月9日プレライブ出演団体
(郡山市カモン)

1. 日音協福島県支部
2. みやwith 凛然
3. 関ジョニーと愉快な仲間たち
4. 宗田や総本家
5. ふれんず
6. VJkin
7. おも

3月11日ライブ出演団体
(郡山市#9)

1. VJkin
2. おも
3. いなのとひら・のことば

福島原発事故はまだ終わっていないゾ

3・11のライブ本番は過去二回同様に郡山の駅前ライブハウス「#9」で開催。デモ行動を終えて「3・11原発いらない福島」の皆さんが今年も多数ライブにかけつけてくれた。最初の演奏はVJkin。客席からは演奏終了と思いきや曲の途中に拍手が入り始めるなどいつものハプニング。メリハリきいたギターのリズム、力強いメッセーシで3・11にふさわしい演奏でライブスタート。

次はカモンのプレライブにも出演していただいた「おも」さん。今回はおもと愉快な仲間（ギターとベース）のバンド編成で7曲披露。カッコいいリードが入りしつかりしたベースもあり、弾き語りとはひと味もふた味も違った演奏。県支部で歌わせていただいた「ヨロコビのうた」「でも一人じゃない」の生歌の時は心から感動。ステージ最後となる演奏は日音協でもおなじみの「いなのとひら・のことば」。いなのさ

原発事故はまだ終わっていないゾ！ デモ行進の後多数ライブに参加

んは昨年の誕生日の日に、息子の付き添いで行った病院で脈拍が異常に少ないことがたまに判明し、そのまま別の病院へ搬送され即入院。結果、心臓にペースメーカーを入れられたとのこと。結果、障害者「一種一級」となったことを演奏合間のトークネタで落ちに使い会場を沸かせていた。

軽妙なトークは衰えることなくむしろ進化してきている。内閣総理大臣の歌では故安倍総理の内容がしっかりと石破総理に変わって現在の時事ネタにパワーアップ。会場の皆を巻き込んでたっぷり8曲演奏していただいた。

ライブ本番の参加は35名。こちらは年々人数が少なくなっている検討が必要かも。

『3・11』この日はいろんな人の想いがいろいろ思い出される日。ここ福島では原発事故で未だ県外避難している数・2万人。廃炉工程見えず中間貯蔵施設の汚染土他県持ち出し先行き不透明。福島では原発事故はまだまだ終わっていないゾ！

(南條善徳)



地元ミュージシャンとの繋がり確認。全員で記念撮影（カモンにて）



温泉につかいながら

3月9日、九州支部の有志3人が、熊本県山鹿市の平山温泉に集まり、会員拡大や長野音楽祭への参加態勢について話し合いました。

また、20年前の第37回熊本音楽祭にチエコの音楽家の通訳してくれたチエコ人のマセルさんが来日したついでに急きよ参加し、有意義な交流となりました。

（音楽運動の記事に使えるならと思い、九州支部の数少ない活動を報告します。）

山田 カ

水道橋だより

▼先般行われた自治労の音楽活動家養成講座で「宗教みたいでいいやだ」という話があった。押し付け的うたごえ祭典などで歌わされたということに対してだと思いが、自分の気持ちがそこに入っていない、歌を押し付けられているということになる。▼作品作りの段階から、みんなで話し合っていけば作品にも気持ちが入り自分たちの作品として表現ができる。自らの表現を自らが創り出していくことが大事で、作り手が言葉を交わして創り出していくことで、そのことが後の活動の力になる。▼はたらく者の音楽団体が日音協なので、現役組もリタイア組も力を合わせて刺激しあうことを続けていきたい。(創作講座における松本会長まとめ)

▼4月号は投稿も多く、創作講座の写真や日音協 SONG (3/3) の楽譜、掲載しきれなかった原稿(資料)…など多くあり、うれしい悲鳴をあげております。今後とも読者の皆さんからの投稿をお待ちしております。(佐藤)

歌の力が物語るもの140

茉莢坂つた行動 3/14 (537回) 報告 長島

【参加者】守屋さん、イサさん、きよみさん、周平さん、達哉さん、森さん、上野さん、他の集會に参加した帰りの男性、えるもくん、長島 計10名

国会議事堂前を上がると、物々しい抗議の音。財務省前で「財務省解体デモ」が行われている模様。経産省前抗議行動から茉莢坂に来たイサさんと守屋さんが異常な様子を話してくれた。群衆の声、救急車、消防車。上空では報道ヘリが何機も飛んでいる。

茉莢坂はいつもと変わらず反原発を歌で訴える場所。3・8さようなら原発集会、3・11東電前抗議行動に続く今日の茉莢坂のうた行動。横断幕や旗

を準備していると自転車に乗ってえるもくんが来た。財務省前の集會の様子を普通じゃない、あの場にいたたまれない、とここにやってきたという。私はお初にお目にかかったが、リコーダーを取り出し吹いてくれた。大きめのリコーダーで、テナーリコーダーだという。今日の伴奏は守屋さんのギター、森さんのアコーディオン、周平さんのトランペットとマラカス、えるもくんのリコーダーだ。

『あたりまえの地球』から茉莢坂行動を開始した。久しぶりに上野さんが登場。上野さんの詩に曲をつけた瓦井さんの『牛の涙(More More)』の楽譜をもらってきたが、ごめんない、まだ歌えません。原発事故直後に聞いた「すぐに戻ってくるからとあふれるほどの餌をまいてきた」という話が歌になっている。

3・11から14年が過ぎても、被災した人の気持ちは復興から置いてきぼりになっている。自主避難した人が何をしたとのか、牛や犬猫などの動物が何をしたとのか。国も東京電力も、自治体も司法も福島原発事故はなかったかのように進めている。名古屋地裁で原子力規制委員会による高浜原発1号機2号機と美浜原発3号機の運転延長の認可に対し、住民からの取り消し訴訟があったが「40年超認可、取り消し認めず」という判決があった。現在も原子力緊急事態宣言は発出中である。また、今年2月に閣議決定したエネルギー基本計画では、「原発依存の縮小」から「原発を最大限活用す

る」に方針転換している。

『ひなまつり』を歌う。「赤い絨毯敷き詰めた国会中継今見頃♪」の歌詞は毎年この時期ならではの歌だ。『子どもらの明日のために』『メッセージ』『明日を殺すな』『ああ福島』『水に流すな』『ジューゴンがすむ海』『辺野古旅情』沖縄を歌う。周平さんの美声にうっとり。リコーダーもありすごい。そのまま周平さんに『Do! 廃炉』を歌ってもらう。歌い続けなければ歌えない歌だ。

『私たちは許さない』『そんな世界が一番』『あなたに届け』『双葉の秋』『答えは我らに』10年後20年後、いや10年たっても15年がたとうとしても何も反省しない東京電力と国。

朝鮮学校無償化差別(高校無償化から朝鮮高校が除外されている)に抗議する文科省前行動に参加してきたひとが、立ち寄って歌詞カードを手にしてくれた。『声よ集まれ歌となれ』『大きな橋』を一緒に歌った。

答えはすぐには見えないけど、『答えは我らに』どれほど傷つけば向き合おうとするのか、涙がこぼれるのは信じられるから、茉莢坂で歌う。その中で何かが見つかることを願う。

来週も、茉莢坂で歌いましょう。

どん行

(189)

飯島貞親

要するに、巨大赤字の3分の2は国民の「血税」に回されることになるのは必至である。

▼4月13日に開幕する万博で、運営主体の日本国際博覧会協会は当初、前売り入場券の販売目標を1400万枚としていたが、これまでは目標の半分程度。そこで大阪府の吉村知事は石破総理に泣きつき、「並ばない万博」という売り込み文句をかなぐり捨てて「当日券」の販売に踏み切った。▼ところが、ここへ来て入場券の売り上げ状況が黒字ラインすらクリアできない惨状にあることが浮上してきた。実は前売り入場券の販売目標とは別に、吉村知事や協会は、黒字ラインを1840万枚と見積もっていた。しかし3月5日時点における入場券の販売枚数は、たった806万枚。経済界に割り当てられた700万枚を差し引くと、個人が購入した入場券はたった100万枚程度にすぎない。吉村知事や協会が試算している開催運営費総額は1160億円。つまり、入場券の売り上げ不振が今後も続けば、赤字総額は予算オーバーの建設費などを除く開催運営費だけでも、数百億円を軽く超える額に達する。吉村知事は3月7日、開催運営費が赤字になった場合には「国と経済界と大阪府・大阪市の三者で協議する」との意向を表明している。▼